概要報告

実施期日	８月３日　㈭
部会名	小学校　国語部会

神奈川研究主題
資質・能力のための学習評価の充実（指導と評価の一体化）

テーマ
『豊かな言語力が育つ指導と評価の工夫』

提案概要
１児童の実態から見える研究主題とテーマについて
【実施学年】
・５年生
【使用教科書】
・光村図書
【児童の実態】
●学習における課題●
・全体指導の言葉かけが記憶に残らないこと
・話を想像して聞くこと
・全体共有の場での発言者の固定化。
・読解、振り返り文の内容の個人差。
〇目指す子ども像〇
・自らの考えを言葉で表現することができる子
・「何を学んだのか」「何をどのように活用していきたいのか」を意欲的に振り返ることができる子。

２国語科年間計画作成に向けて
　提案者の学校では、教科担任制を導入したことで、学年２クラスの国語を指導することになった。そこで、どの単元も子どもたちを正しく評価をするために、国語科年間計画を作成した。
　国語科年間計画は、その単元で「何を身に付けるのか」「どのように身に付けるのか」「どのように評価をするのか」「見通しをもった準備」の４項目を設定した。
国語科年間計画を作成したことで、指導と評価が一目で分かり、授業計画を具体的にねることができた。また、教科担任制において、全クラス共通の指導と評価を行うことができた。

３実践内容
物語文「なまえつけてよ」
【単元目標】登場人物どうしの関わりをとらえ、感想を伝え合う。
【児童振り返りより】
　●抽出児童Ａ：心情を読み取ることを経験し、実生活でも具体的に想像しながら、生かそうとしている記述があった。
　「心情」という、単元の中でも重要となる語句も出ていた。
　●抽出児童Ｂ：単元を通して学んだことは記述しているが、具体的ではなかった。
説明文「言葉の意味が分かること」
【単元目標】文章の要旨をとらえ、自分の考えを発表する
【児童振り返りより】
　●抽出児童Ａ：150 字以内で書き、段落、文末表現の統一などを意識して書けているが、筆者の考えが明確に書かれていない。
　●抽出児童Ｂ：段落はないが、筆者の考えが明確に書かれている
物語文「たずねびと」
【単元目標】物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合う
【児童振り返りより】
　●抽出児童Ａ：物語の全体像をとらえるというめあてで、１時間ずつ最初から最後までだから、今までの物語文の中で一番大変だった。
　●抽出児童Ｂ：「数」をもとに心情を捉えることが今まで注目したことがなかったから難しかった。
物語文「固有種が教えてくれること」
【単元目標】資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書く。
【指導の工夫】「資料のない文章」と「資料を用いた文章」を比べることで資料の効果に気付くことができる。

物語文「やなせたかし――アンパンマンの勇気」
【単元目標】伝記を読み、自分の生き方について考える。
【指導の工夫】
【児童振り返りより】
●抽出児童Ａ:伝記を読むことの良さは、自分の生き方などに気付くことができること
●抽出児童Ｂ:伝記を読んだことによって、読むだけではなく、自分の考えと人の考えを重ね合わせることも学んだから、これからの学習に活かしていきたいと思いました。あまり知らなかったやなせたかしさんのことについて、伝記を読んだことによって、色々知ることができた。

質疑・応答

Ｑ:課題にもあるが、全体共有がうまくできないことが多い。その点について。
Ａ:手元に考えがあっても言葉にだせない。視覚的に残るものをもちいて工夫をした。
しかし、なかなか最後まで全体共有できなかった。グループで話し合うときに、ぜひ話題にして欲しい。
意見:指導と評価の一体化について。指導の見通しをもつと指導も評価もしやすいことがわかった。こどもも見通しをもって学習することができていた。学習計画表、伝記の読み取り方もとてもよかった。
Ｑ:学年だけにならずに、学校に共有することはしたのか。
Ａ:興味のある先生には、資料を配布した。ただ、これで完成ではない。更に内容を更新すればよいのではないか。

協議の柱および協議概要

協議の柱⇒「読むことにおいて、子どもが成長を感じられる指導・評価の工夫」

協議概要

【子どもが成長を感じられる指導】
小学校…リズムにのった音読、読み聞かせ、視覚的な資料、ロイロノートの活用、
思考ツールの活用等。
中学校…スライドを作成、ニュースを四コマ漫画でまとめる等。
【評価の工夫】
小学校…初発の感想から単元終末での変容、タブレット端末の活用、ワークシートの活用　等
中学校…昨年度までの付けてきた力の把握、評価規準の確認等。
【小中共通】
振り返りをどのように扱うのかがとても重要。思考がＡの評価でも振り返りに書くことで評価がＢになってしまうこともある。だからこそ視点を絞って書くようにするのか、単元全体での学びを見とるための振り返りなのかなど留意が必要。指導者の意図をもって書けるようにすべき。国語という教科は、学習の系統性が見えにくい教科。だからこそ、どのような学習を積み重ね、どのよう学習をこの単元で積み重ねなければならないのかを考える必要がある。

まとめ概要

藤沢市教育委員会・黒坂指導主事
【本提案の意義】
主体的、対話的で深い学びの実現となるように授業改善を行うことが必要。また、指導と評価の一体化を行うようにすることも大切。
【提案について】
評価の場面や方法は、まずは、子どもの実態をよく捉えていた。そこから年間単元計画を作成。授業者が評価場面を想定し、どこで何を指導しなくてはならないのかを理解することができていた。そのおかげで、ポイントをおさえて指導し、評価することができていた。シンキングツールを使い、児童の思考を整理したうえで、振り返りを書くようにすることで、自分の考えをしっかり学ぶことができる。参加した先生方も子どもの実態を把握し、年間でどこに何をどう学ぶべきなのかということを夏の間に整理しておくとよい。
【協議会について】
主体的、対話的に参観者が協議を行っていた。前学年との接続、小中との接続がポイントとなる。タブレットで成果物をデータで保存することも今はできる。思考ツールを活用していくとよい。小学校は日常生活、中学校は社会生活に生きる学びを行う。日常生活なくして社会生活に移行できない。